

平成29年度 第4回 備前市公共交通会議 会議録要旨

開催日時：平成30年3月22日（木） 10時00分～10時40分

開催場所：備前市役所 3階大会議室

出席委員：田原 隆雄【備前市長】
今脇 誠司【備前市市民生活部長】
松下 重光【(株)インベタクシー】
宇治橋 昭彦【備前市自治会連絡協議会】
金本 伸一【備前市自治会連絡協議会】
大平 國夫【備前市自治会連絡協議会】
三宅 陽【備前市老人クラブ連合会】
松本 和好【備前市老人クラブ連合会】
寺見 史朗【備前市老人クラブ連合会】
出席9名、委任状提出5名

専門委員：山崎 慎平【中国運輸局岡山運輸支局】
村上 泰三【備前警察署】
鷲田 陽介【岡山県県民生活部県民生活交通課】

事務局：市民生活部公共交通課
杉田（課長）、川淵（係長）、千田

1. 開会

2. 会長あいさつ

本日は年度末で大変お忙しい中ご出席いただきまして大変なありがとうございます。

私も市長になりましてほぼ一年近くなりました。この一年間を振り返ってみますといろいろなことがございました。まず、10月には市営バス頭島線が本格運行致しました。併せて日生定期船航路が国庫補助航路に認定され再出発をすることになりました。

また、嬉しい話と致しましては、J R さんのご協力により備前市内の J R 9 駅すべてに、I C O C A が導入されることとなりました。本年夏には本格的に利用できるというような状況でございます。

市民の皆様方からいろいろと公共交通についてダイヤの問題とか要望があるわけですが、実態を踏まえていると議会とも協議をしながら市民のサービスに努力してまいりたい、このように思っております。そのような中で経費などが民間にお願いしていた時から比べて大変高くなっております。そういったことも併せて今後考えていかなければなりません。赤磐で大変大きな事故もありました。そのようなことで高齢者のドライバーが多いわけでありまして、そのような時事問題についての工夫もこれからしていかなければならないということも課題としてあるわけでございます。

今日はいろいろと皆様方のご意見をお伺いしながら市民に役立つ公共交通にしていきたいと思いますので、よろしくお願い致します。今日はご苦労様です。ありがとうございます。

事務局：

協議に入る前に、平成 29 年度の市営バスの輸送実績についてご報告いたします。

お配りしております、参考資料の 1 ページをご覧ください。こちらは今年度 2 月末までの市営バスの輸送実績についてまとめております。

まず、概要についてご説明いたします。現在、バス車両 9 台、ワンボックスタイプの普通乗用車 9 台の計 18 台を使用して直営 3 路線、委託 7 路線の市内 10 路線を運行しております。輸送実績としましては、30 年 2 月 28 日現在で総走行距離は 225,568 キロメートル、総輸送人員は 84,602 人となっております。事故件数については、2 件の物損事故となっております。

3. 協議事項

(1) 三石線・寒河蕃山伊里線の一部路線延長について

－事務局からの説明（資料① P1～P4）－

今回、三石線と寒河蕃山伊里線の一部ダイヤで、路線を延長し、山田原地区へ乗り入れを行いたいと考えております。

現在、山田原地区の最寄りのバス停は県道沿いの山田原口バス停でございます。このバス停は、従前より交差点内に設置されており、大変危険な場所であることや、また、山田原地区からバス停まではおよそ 600 メートルほどあり、高齢者にとっては利用が困難

であることが考えられるため、蕃山下と麻宇那上との間に新たに山田原バス停を設けて運行ルートの変更を行いたいと考えております。

ダイヤにつきましては、三石線の平日ダイヤ、佐那高下 9:45 発備前病院行を 9:39 発に、片上 15:50 発佐那高下行きを、片上 15:50 発佐那高下 16:15 着に変更したいと考えております。

次に、寒河蕃山伊里線の水曜・木曜・金曜日に運行しています、シーサイドプール 15:05 発片上行きを 14:59 発に、片上 12:10 発シーサイドプール行きを片上 12:10 発シーサイドプール 12:45 着に変更したいと考えております。

また、現在の山田原口バス停につきましては、今後、現在の位置からの移動を検討しており、利用状況等をみながら将来的にはバス停の撤去も考えていきたいと思っております。以上でございます。

会 長：ただいま三石線・寒河蕃山伊里線の一部路線延長について意見や質問はありませんか。ないようでございますのでこちらの議案につきましては承認ということでよろしいでしょうか。

－異議なし。－

(2) 頭島線の増便について

－事務局から説明（資料② P5～P7）－

頭島線につきましては、新規路線として今年度 4 月から実証運行を行い、10 月の離島航路の再編に伴い、本格運行を行っております。

会議資料の 6 ページには 4 月から 9 月までの実績を、7 ページには 10 月から 2 月までの利用実績をまとめております。

ダイヤ改正後の利用状況ですが、10 月には、日生町漁協の外国人研修生の利用が多く大幅に増加しておりますが、他の月では、毎月 500 人前後の利用があり、概ね期待通りの利用状況となっております。

次に下段の表をご覧ください。こちらは、ダイヤ毎の利用状況をまとめています。

平日の頭島発日生行きでは 7:57 と 9:30 の便が主に利用され、日生病院までの乗車が最も多く利用されておりました。逆に、夕方の便の利用は少なく、また休日のダイヤについても利用は低調であり空車が目立つ状況となっております。

日生発頭島行きでは、12 時と 15 時の便の利用が多く、病院や買い物帰りに利用されたものと思われます。

ここで、入鹿発日生行きと日生発入鹿行きの利用状況を見比べていただきますと、毎月 100 人前後の差が生じているのがわかると思っております。これは、行きはバスに乗り、

帰りはバスの時間が合わず何らか別の方法で帰ったのではないかとと思われます。
地元町内会からも、病院、買い物を済ませ昼前に頭島へ帰る便を望まれており、今回
お昼前の便の増便を考えております。
変更後のダイヤは平日ダイヤの日生 10:30 発入鹿行きと、折り返し入鹿 10:55 発日生
行きの 2 便の増便を予定しております。
また、今後については、利用の少ない夕方の便の減便も検討していきたいと思ひます。
以上でございます。

会 長：ただ今頭島線の実績に応じて増便をという提案でございます。頭島線の増便につ
いてご意見ご質問はございませんか。ないようですのでこちらの議案についても
承認ということでよろしいでしょうか。

－異議なし。－

会 長：以上で予定しております協議事項はすべて終わりました。
次に 4. 報告事項に移ります。

4. 報告事項

備前市愛♡乗りタクシーチケットの見直しについて（資料③ P8～P9）

事務局：今年度、高齢者や障がい者などの交通弱者を対象に実施しています備前市愛♡乗り
タクシーチケット交付事業を平成 30 年度も継続して実施する予定としております
が、来年度は、資料の申請の案内にもございますように、対象者の要件、利用で
きる交通機関、補助額などに変更を加え、また、名称も愛♡乗り生活交通チケット
と変更して実施していきたいと考えております。

まず、対象者の要件は年齢 70 歳以上から年齢 70 歳以上の自動車運転免許証を
所持していない方に変更いたします。こちらは、自動二輪、原付のみの運転免許
証は対象といたします。

次に、利用できる交通機関では、従来は、市内のタクシー会社と一部市外のタ
クシー会社のみ使用可能でしたが、市営バス、定期船でも使用できるように変更
いたします。

また、補助額については年間 18,000 円から 19,200 円に変更し、使用期限につ
いても、毎月から、2 ヶ月に変更いたします。

平成 29 年度では、対象世帯 7,200 世帯に対しまして、約 2,800 件の申請があり

ましたが、実際に使用されたのは、およそ4割程度でございます。利用者からは、使用期限が毎月のため、使用しにくい。バスでも使えるようにして欲しいなどの意見も多くございましたので、今回の見直しで、みなさんがより利用しやすい補助制度となればと、考えております。

会 長：この度備前市で実施しているタクシーチケット制度の見直しということでございます。最終的には明日の議会で議決があるわけですが、こういった提案をさせていただいておりました委員会では了解をいただいておりますのでこういった形で報告させていただきました。

5. その他

会 長：せっかくの機会ですので公共交通全般についてご意見等ございましたらお願いします

委 員：ごあいさつの中で質問をさせていただきます。以前は民間がバスを運行しており、現在は市が運行している、財政的にずいぶん割高になっておるとい話がありましたがもう少し詳しくお聞きすることは出来ませんか。

事務局：市営化される前、備前バスさんが運行しているときは市からの補助ということで約8千万円の補助をしておりました。市営化後はおおよそ1億3千万円の経費がかかっております。こちらに関しましては、人件費、委託料、燃料費、車両の修繕料などがかかっております。あと追加で南北・閑谷学校のぞみ線、頭島線を新規での路線追加となっており経費が増えている状況でございます。

委 員：そこで気掛かりは税をたくさん使っているというのは最もでございますが、市民の声、従前民間が運行していた時、そして今備前市が運行しているときのサービスと言いますか、そういうことに関してのご意見などは寄せられてはいませんか。

事務局：毎日のようにご意見は頂戴しております。サービスや運転手のマナーでございまして、ダイヤの相談など個別でのお話は公共交通課や管理事務所の方に寄せられている状況でございます。

委 員：ありがとうございます。ということは民間でも市営でもさほどお客様の反応は極端によくなった、下がったということは感じられないということでしょうか。

事務局：バスが市営化になってよかったというご意見は頂いたことはございません。民間事業者さんがされている時より新規路線も増えましたし、そういったところではご利用様が喜んでくださっているのではないかと思います。幾分苦情のお電話が目立つところでありまして、公共交通課としましてもご利用様それぞれに対応できればいいんですが、なかなかその辺りの対応が難しいところではあります。

委員：大切な税ですので効率よく使っていただくのがいいんですが、流れとして両備バスもつい最近皆さんもご存じのような形になっておりますが、民間が過疎であったり、赤字路線については手放していくこういうご時世で、もう一度行政が直接担うのではなくて民間のようところが担ってもらえる、そういう方向で検討なさるといような趣旨でありましようか、ちょっとその辺りが知りたいところがあります。

会長：それにつきましては公共交通関係だけでなく民間でやって頂けることは出来るだけ民間にという基本方針ではあります。先ほどのいろいろな苦情につきましても、市営になったから直接市に苦情が言いやすくなったのかなと。おそらく日生運輸さんにはそれなりに入っており、間接的に市に入っていたものが直接担当に来るようになったのではないかなと思っております。

それから、先日の議会で出た話ですが、せっかく公共交通できめ細かくバスを走らせているけれども乗ってない路線が結構あるんじゃないかと。その辺りの整理をするべきじゃないかという話。せっかく走らせるんだから空気を運ぶのではなく、年間定期を発行して乗り放題というような方法もあるんじゃないかと。そうすることによって自由に人が交流できる、特に高齢者の人たちはバスを利用してくださいますので年間定期という形ではどうかなというような提案がありました。そのような形でも具体的に検討してみようかなと思っております。

委員：路線バスを運行しておるところと、していないところの愛乗りチケットの利用の関係性みたいなのはデータの的にないんですか。例えば路線バスが走っているのに利用が少ないとか路線バスが走っていないのでチケットがかなり活用されておるとか。そういうところの統計的に取って、今後組み立てないところも路線組むような形を。

事務局：本日は地区ごとのタクシーチケットの利用状況の集計というのは出来ていない状況でございます。29年度の事業は3月末で終了するんですが、今後地区ごとにどれだけ利用頻度が高いかという資料も次回の交通会議の時にはお示しし

ていきたいと考えております。

委員：今後、高齢化が進むと免許証の返納というのも増えてきますので、そういったことも考えて頂けたらと思います。

委員：先ほどクレームということでご質問がありましたけれども、運転手さんのマナーでクレームつけられたらやっぱりいかんと思うんですね。これはきちんと対応してあげて、いろいろな方がいらっしゃる所以で自分が気に入らなかったらすぐクレームつけるのも困るんですけど。常識的な範囲の中でクレームが来れば対応して、挨拶とかもいちいちありがとうございますとごさいますと言うのも支障があるのかもしれないかもしれませんが、やはり運転手さんのマナーというのは職員のかたでありますし、きちんとお願いしたいと思います。

それと、バスなんかの公共事業というものは費用対効果をあまり前面に出すと色々な弊害点が出てくるとは思いますが、そうは言いましても先日も両備バスさんのいろいろな公共交通の問題が新聞に出ておりますが、かなり大きな財政負担がかかっておりますのでその辺りも市民の皆様がきちんと対応していただかなければいかん。何でも言えばバスが増えたり増設されたりするんかというのも困りますし、その辺りのクレームに関してもこれは皆さんに知っておいて頂きたいというようなものがあればこの会議で提示していただいて、我々も代表で来ておりますのでこういった問題がありますが皆様はどう思われますかというのがあれば、老人クラブ関係でも高齢者の方にこういう事で説明しますし、納得するし、啓発していったらどうだろうかといった話もできます。ただ当局の方でこれは皆さんに考えて頂きたいというようなものがございましたらここで提示していただきたいと思っております。

それともう一点、先日神姫バスの件で郵便による投票がございましたが、やはり報告事項としてここで提示された方がいいのではないかと私は思います。

事務局：ありがとうございます。

運転手のマナーにつきましては再度指導の方徹底していきたいと思っております。また、バスの運行経費の方も省けるところは省いて費用対効果を意識しながらの路線にしていきたいと考えております。

書面審議の件につきましては大変申し訳ございませんでした。

委員：公共交通問題につきましては備前市の場合は安心した感じで私はみております。赤バスが走っているとホッと心が和むような感じがするわけなんです。以前の備前バスが運行しておった当時と市営バスに運行替えを致しまして赤バスが各所に運行しておる。なんとなしに心が安らぐような気がするんです。

お話がありましたけれども、両備バスの31路線の廃止問題が急転直下復活致しましたが、ああいった内部事情は分かりませんがよほど外部からの援助関係の手が差し伸べられたんじゃないかなろうかとそういった感じが致しております。本市はその点がまず問題はないんじゃないかなろうかと平素やや安心は致しております。日常交通これはもう生活には直結しておりますから、先程事務局の方からお話がありましたように苦情がないようでも個々の細部の面につきましては毎日ぐらい苦情が出てくると思うんです。ですがこれは全体的な共通的な問題よりは部分的な問題であろうと思います。この問題はそう神経性にならなくてもそれに対応できればいいのではないかなと思うんですが、ひとつ伺いたいのは、本日の件には出ておりませんが、三国西地区が自主運行をしておりますよね。現在区長と、老人会の会長をやっておるものが二人担当で運行をしておりますようで、かなり忙しい思いをしているみたいなんですが、ひとつのケースとしては順調にいけばああいった希望の地区が今後出てくるだろうが、その点はどのようなご意向もっておられるのか伺いたいと思ひまして。ああいったような形態が随所に出来れば、運転手の確保に困るんだというようなことを言っていましたし、実際に運転手ふたりに支障があった時にバスはあるけど運転手がおらんというようなことが時には発生するのではないかなと思いますが、そういった件について何かご意見なり要望が出ているのか伺いたいと思ひます。

事務局：吉永町の笹目地区で運行しております「ささめあい号」のことかと思ひます。他の地域でもささめあい号のような地元地区で運行したいというような声が何件かはございました。しかしながらこちらの方につきましては、やはり地域のタクシー事業者さん等の理解も必要でありますし、極端に言えばバスが走っているのでそちらを利用して下さいというようなお話でなかなか進まない状況ではあります。今後も地区が主体となりまして公共交通を守っていくようなお話があればこちらの方はお願いしたいような状況ではあります。

6. 閉会

会 長：これを平成29年度第4回備前市公共交通会議を閉会とさせていただきます。本日はありがとうございました。